

ばてん-わん

A T T E N - W O M A N

1991年 11月 No. 126

〈事務局〉
澤田尚美子
〈編集〉
高田まゆ子



九月七日 土曜日
「ばてん-わん」の文庫の
文庫開きがありました。

午後二時から、長崎市の市立図書館全体の世話をする「図書センター」で寄贈式を行いました。

「スタート3年」を買って下った方々からいただいたお金の利息を、女性が勇気付けられ、デパートに、明日、明日へと歩いて行く力を



応援するための本に代え、3年ごとに贈りつづけているものです。本は利用するの一番便利な所にある。中央公民館図書室におかれ、「ばてん-わん文庫」と大書され、本棚に収めて貸りてくれる人をお待ちです。今年が3回目です。千冊をこえました。

お返しの本はありません。たいへん本ばかりです。そして、借り手が多く、図書室の本の中にも回転率がとても高いです。「スタート3年」の活用者の皆様、ありがとうございます。せめて、お口に合えばいいです。

前略。三冊目が送られてきた。

今回は、新しい人生の光を迎える友人にプレゼント
しようと、2冊お願ひがけにしました。

大村お身の私に送りつけて、とてもはつかしい。喜んで
楽しんでお楽しみ。どうぞうれしくお願ひがけします。

『会議』の中にいれたい見聞 (連載8)

『会議』

秋になると、官公庁の経理担当は翌年度の予算編成にかかる。予算編成にあつて会議の招集があつた。私は全く関係がなかつたから、声がかからなかつた。積極的に会議に割り込んで行つてみた。事務職の男性はほとんど来ていたのだと聞いた。

いつも思う。女性は何んな会議にも全く参加出来なからである。女性は会議から締め出されて、お茶出し、後片付けくらいしかさせられない。それだけ事務仕事、責任ある仕事にフルで参加しない証拠で、女性は男性の手足となつて働いてゐるだけである。

会議に出て、自分の意見とバツチが合つて、仕事や能力の評価にもつながらなかつた。「会議ばかりあつて疲れる」「社がしい」という男性に対して、悩ましくて、はがや、思いばかりさせられる。役所は実に男社会であるが、行政や住民サービスに女性の視点が全く反映されないのは、市民生活の向上にはなからなかつた。

今後、ますます高度化社会を迎えようとしているので、女性の地位向上をもっともと声大にして叫びたい。

「女性行政推進室」には果つてある仕事をしてもらいたいものである。

